

中野駅周辺まちづくりグランドデザイン
Ver.3^{バージョン}(素案)に関する意見交換会資料

第1章 基本的な考え方～位置付け～

1. 中野駅周辺まちづくりグランドデザインの目的

中野駅周辺まちづくりグランドデザインは、中野駅周辺のまちづくりの展望を区民・民間事業者・行政が共有し、公民協働でまちづくりを推進するため、ハード・ソフト両面のまちの将来像のほか、整備に係る基本的な考え方や実現に向けた取り組みを、指針として示したもの

第1章 基本的な考え方～位置付け～

2. 今回の改定までの経緯

●Ver.1:平成18年12月策定

- 中野四季の都市(警大跡地)開発を契機に、中野駅周辺のソフト・ハードの将来像を描く

●Ver.2:平成21年10月策定

- 中野四季の都市のまちづくりの進展
- 駅地区整備の具体的な検討

●Ver.3:平成24年6月策定予定

- 次のプロジェクトの方向性を示す
- 東日本大震災を踏まえた防災機能の見直し

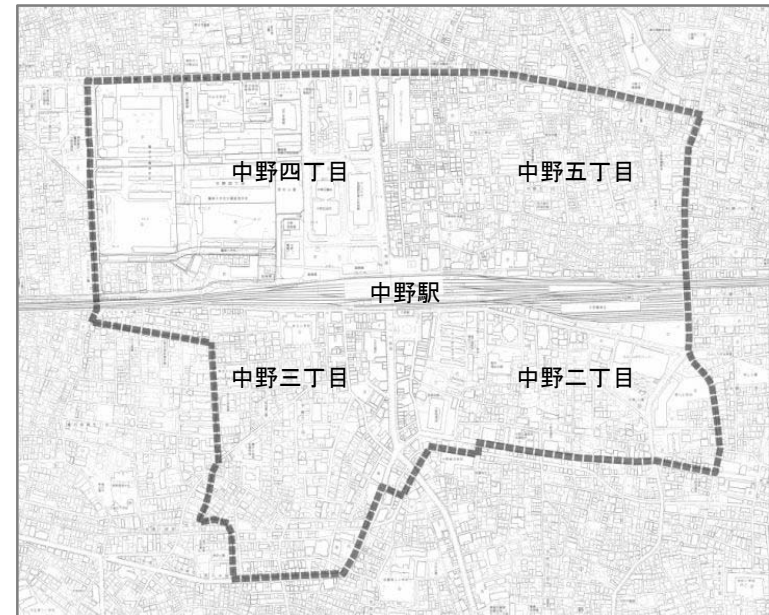
第1章 基本的な考え方～位置付け～

3. 策定範囲

約110ha(中野二、三、四、五丁目及び一丁目の一部)

4. 目標時期

平成24年(2012年)～平成43年(2031年)までの20年間



第1章 基本的な考え方

価値軸を明確にした都市基盤整備

都市基盤の整備にあたり、働き・楽しみ・暮らしの調和、にぎわい・文化、ユニバーサルデザイン、防災、環境、景観といった価値軸を明確にする

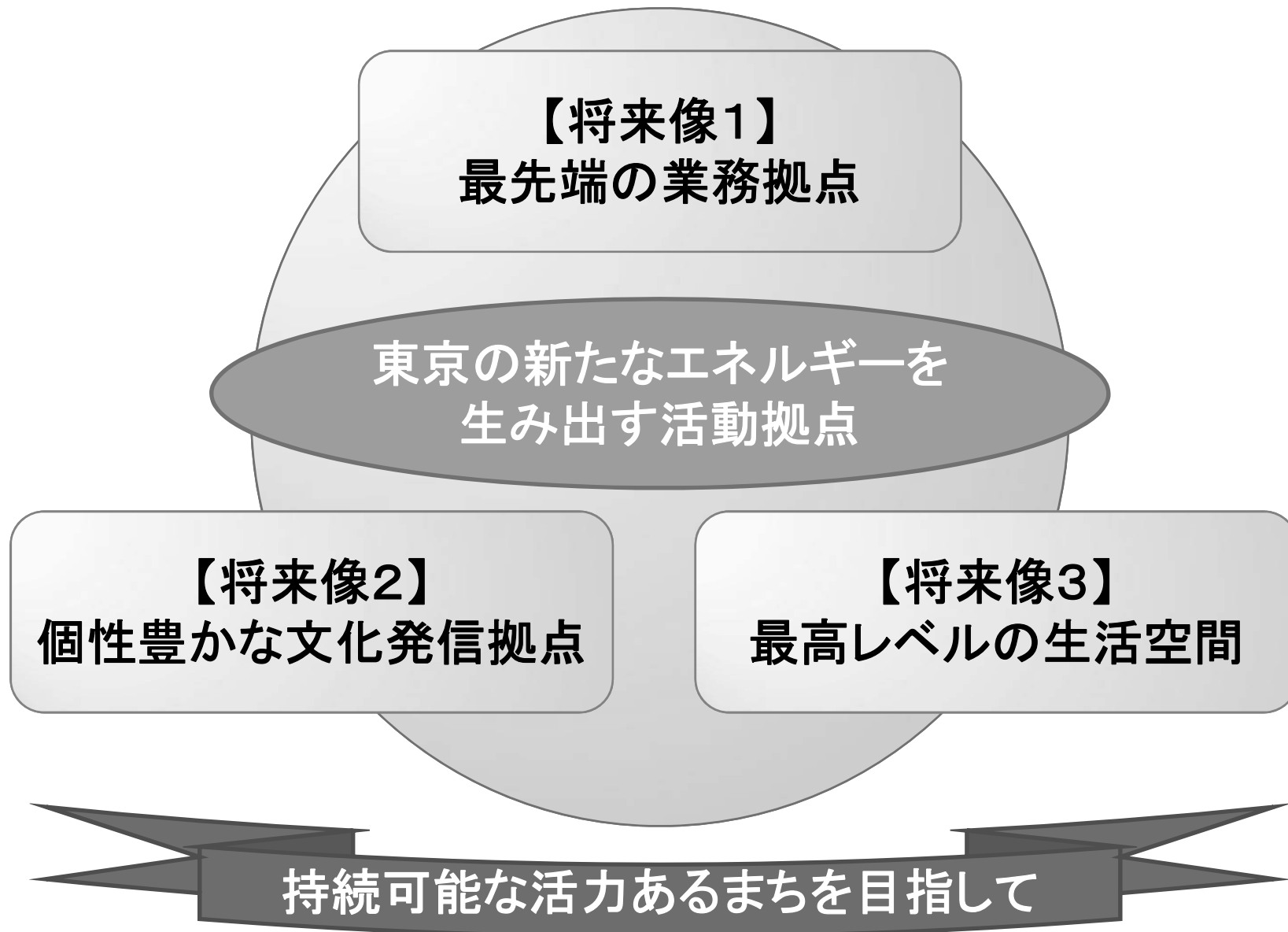
多核回遊型都市の形成

各地区の個性を活かしながら、多様な都市機能の配置・集積、回遊動線の整備を進め、まちの活力・魅力を高める

タウンマネジメント推進体制の構築

行政が適切な役割を果たしつつ、人的・組織的なネットワークを広げ、相乗的にまち全体の質や価値を向上させる

第2章 中野駅周辺の将来像と実現への戦略



第2章 将来像と実現への戦略

【将来像1】

最先端の業務拠点 ~働き、学び、楽しむまち

- 企業や教育・研究機関などの多様な活動
- 業務活動の成果につながる人的・知的交流の場
- 仕事以外の時間を彩る豊かな商業、飲食、文化・教育施設
- 職住近接のライフスタイル
- 回遊を促すユニバーサルデザインの道路交通環境

【現状と方向性】

- 業務・商業活動の拡充
- 人的・知的交流の「場」の確保
- 多様な都市機能の集積
- 職住近接のライフスタイル推進
- 道路交通環境の改善

第2章 将来像と実現への戦略

【主な取り組み】

個別目標	内容
業務・商業活動の拡充	周辺地域と調和のとれた開発による業務・商業の集積
防災性や事業継続性の向上	公共空間の創出や地域防災対策の推進
交流空間の創出	コンベンション施設や宿泊施設など、企業活動や教育・研究活動をサポートする機能の整備
交流ネットワークの構築	企業・大学等が持つ人材やノウハウなど多様な資産を活用するネットワークの構築
職住近接の推進	周辺地域と調和のとれた開発による住宅の集積
アフターファイブを彩る機能の充実	学習活動や余暇活動を充実させる場の誘導・整備、魅力ある商業集積
働きやすい環境の整備	ユニバーサルデザインに基づく基盤整備、生活サポート機能の誘導
回遊性の向上 道路交通環境の改善	歩行者動線の整備、都市計画道路や駅前広場の整備・機能改善、自転車・自動車駐車場の分散配置

第2章 将来像と実現への戦略

【将来像2】

個性豊かな文化発信拠点

～新たな文化・情報が生まれ、国内外に広がっていくまち

- 多様な表現・文化活動の集積、人材とコンテンツの輩出
- まちを活性化する魅力の発見・発信・ブランド化
- オープンスペースからの文化発信
- 国内外から広く注目されるまち

【現状と方向性】

- 独自の文化・産業形成
- まち活性化に向けた環境整備
- オープンスペースの有効活用
- 大規模イベント等の開催に向けた環境づくり

第2章 将来像と実現への戦略

【主な取り組み】

個別目標	内容
表現・文化活動や関連産業の集積	多様な表現・文化活動やコンテンツ産業の集積、担い手の育成
まち歩きを楽しめる環境づくり	駅やまちなかにおける、まちの情報発信・案内の仕組みの構築
都市観光推進体制の構築	既存の資源の発掘や新たな資源の開発、都市観光を広くPRする体制の構築
オープンスペースの有効利用	広場などのオープンスペースを活用した表現・文化活動の場の創出
大規模イベント等の誘導	新たな大規模集客施設の整備や駅周辺の業務・商業・文化・公共施設等の一体的な活用による大規模イベント等の誘導

第2章 将来像と実現への戦略

【将来像3】

最高レベルの生活空間 ~暮らしやすさが向上し続けるまち

- 安全で快適なまちなみ
- 量的・質的に充実した商業空間
- どのライフステージにあっても、安心して健康を維持できる生活
- 多世代が居住するコミュニティ

【現状と方向性】

- 安全性や快適性の向上
- 商業空間の拡充
- 生活や健康サポート機能の構築
- 多世代居住促進による地域形成

第2章 将来像と実現への戦略

【主な取り組み】

個別目標	内容
安全で快適なまちづくり	ユニバーサルデザインや景観に配慮した基盤整備、公共空地の創出、地域における防災の取り組み
商業空間の利便性の向上	新たな商業集積、買い物客の送迎や商品の宅配など個人のニーズに合わせた買い物サービスの導入
サポート機能の充実	駅周辺での保育・健康・医療・介護などのサポートサービス施設の立地、新たなサービスの展開の誘導
良質・多機能な住宅の供給	ファミリー層や高齢者など各世代のニーズに合わせた良質・多機能な住宅の誘導

第3章 中野駅周辺整備の方向性

【空間整備の考え方】

- オープンスペースの拡大
- 防災機能の向上
- 歩行者優先・公共交通指向の道路・交通ネットワーク構築
- 環境への配慮、緑のネットワーク構築
- 新たな活動拠点にふさわしい景観形成
- ユニバーサルデザインのまちづくり
- 各地区の特色を活かした核づくり

第3章 各地区の整備方針

中野駅地区～魅力ある中野の玄関口としてまちをつなぐ

【新北口駅前広場】

区役所・サンプラザ地区
との一体的整備

【中野三丁目駅前広場】

西側南北通路における南
側の新たな玄関口として
の駅前広場の整備



【中野駅(駅ビル)】

回遊性や生活利便性の向上、
地域商業のさらなる発展につ
ながる駅ビルの誘導

【南口駅前広場】

市街地再開発とあわせた
拡張整備

【各地区をつなぐ動線】

- 中野四丁目と五丁目をつなぐ北側東西連絡路
- 中野三丁目と四丁目をつなぐ西側南北通路の整備
- 中野二丁目と三丁目をつなぐ南側東西連絡路の検討
- 中野二丁目と五丁目をつなぐ東側南北通路の可能性検討

第3章 各地区の整備方針

中野四丁目地区 ～先端的な都市機能と豊かな緑



中野三丁目地区 ～文化的なにぎわいと暮らしの調和

【中野四季の都市】

防災など多様な公園機能を拡充させるため、中野四季の森公園を拡張

【区役所・サンプラザ地区・新北口駅前広場】

- 区役所・サンプラザ地区の大街区化、周辺用地一帯の交通利便性に配慮した都市計画道路の再編
- 区役所・サンプラザ地区における大規模集客空間や広場空間の整備（民間事業者とのパートナーシップによる整備・施設運営）

【困町地区】

市街地再開発の誘導、補助221号線の整備

【四丁目西地区】

周辺の土地利用と整合したまちづくりの誘導

【中野三丁目駅直近地区及び桃丘小跡地区】

- 防災性や利便性を高める、街区の再編や道路整備による面的なまちづくりの実施
- 桃丘跡地の事業用地としての活用

【桃園通り沿い地区、住宅地区】

- 共同化や建替えなどによる歩行者空間の創出
- にぎわい・文化のまちなみ形成、良好な住環境の保全

第3章 各地区の整備方針

【中野通り沿い地区、サンモール・ブロードウェイ地区】
地区の再開発や共同化、街区再編の誘導

【中野五丁目全域】
•共同化や街区再編の誘導、公共空地の創出
•円滑な物流の確保、消防活動困難区域の解消

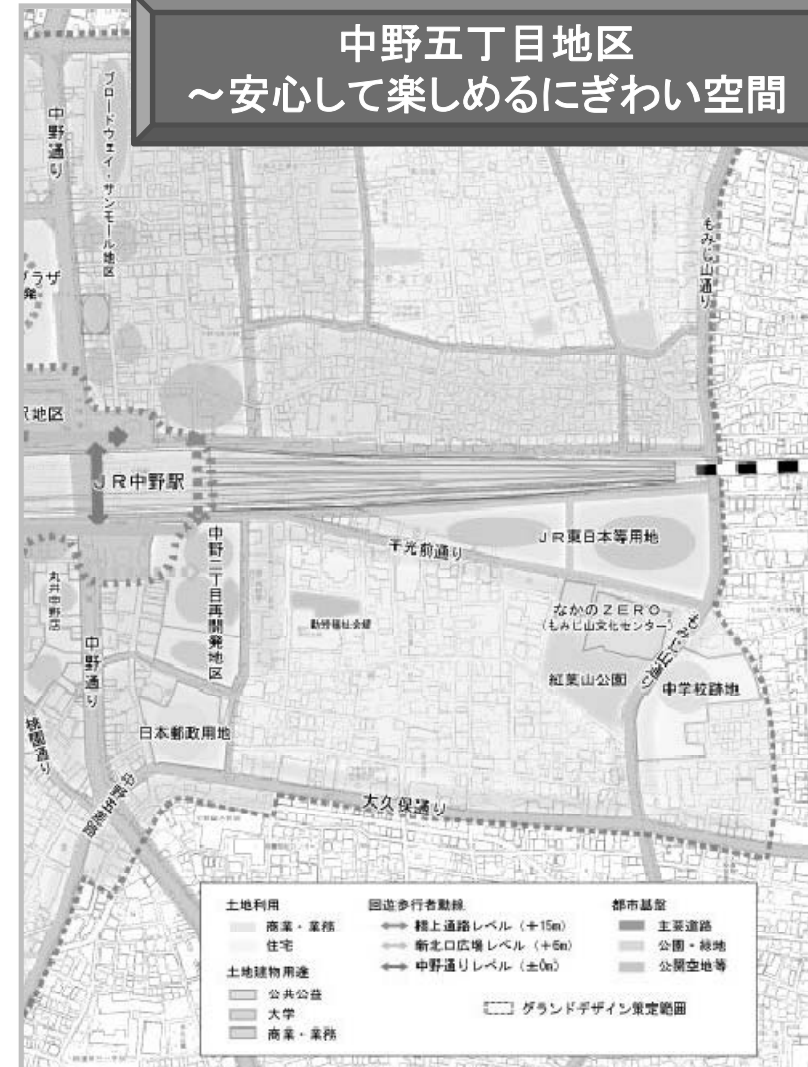
【中野駅直近地区】
中野二丁目とつなぐ南北通路、再開発の誘導

【南口駅前広場】
市街地再開発とあわせた拡張整備

【駅から五差路につながる中野二丁目一帯】
•業務・商業・住宅・公共公益機能の集積による南口の
にぎわいの核の形成
•東側主要区画道路、東西南北の歩行者動線整備

【もみじ山地区及び千光前通り周辺、住宅地区】
•JR電車区を活用したまちづくり
•良好な住環境の保全

中野五丁目地区
～安心して楽しめるにぎわい空間



中野二丁目地区
～新たな業務・商業の集積と生活・コミュニティの核

第3章 各地区の整備方針、公共施設配置

道路・交通ネットワーク ～歩行者優先・公共交通指向のまちづくり

【道路】

- 基幹的な都市計画道路や課題のある交差点改良の優先的整備
- 地区内主要道路の拡幅
- 安全安心な歩行者・自転車道整備

【駐車場】

- 自動車・自転車駐車場の適正配置・供給
- 移動制約者対応駐車場、荷捌き駐車場の確保

【公共交通機関】

- 鉄道輸送力強化を図る対策の働きかけ

公共施設配置のあり方

【中野区役所】

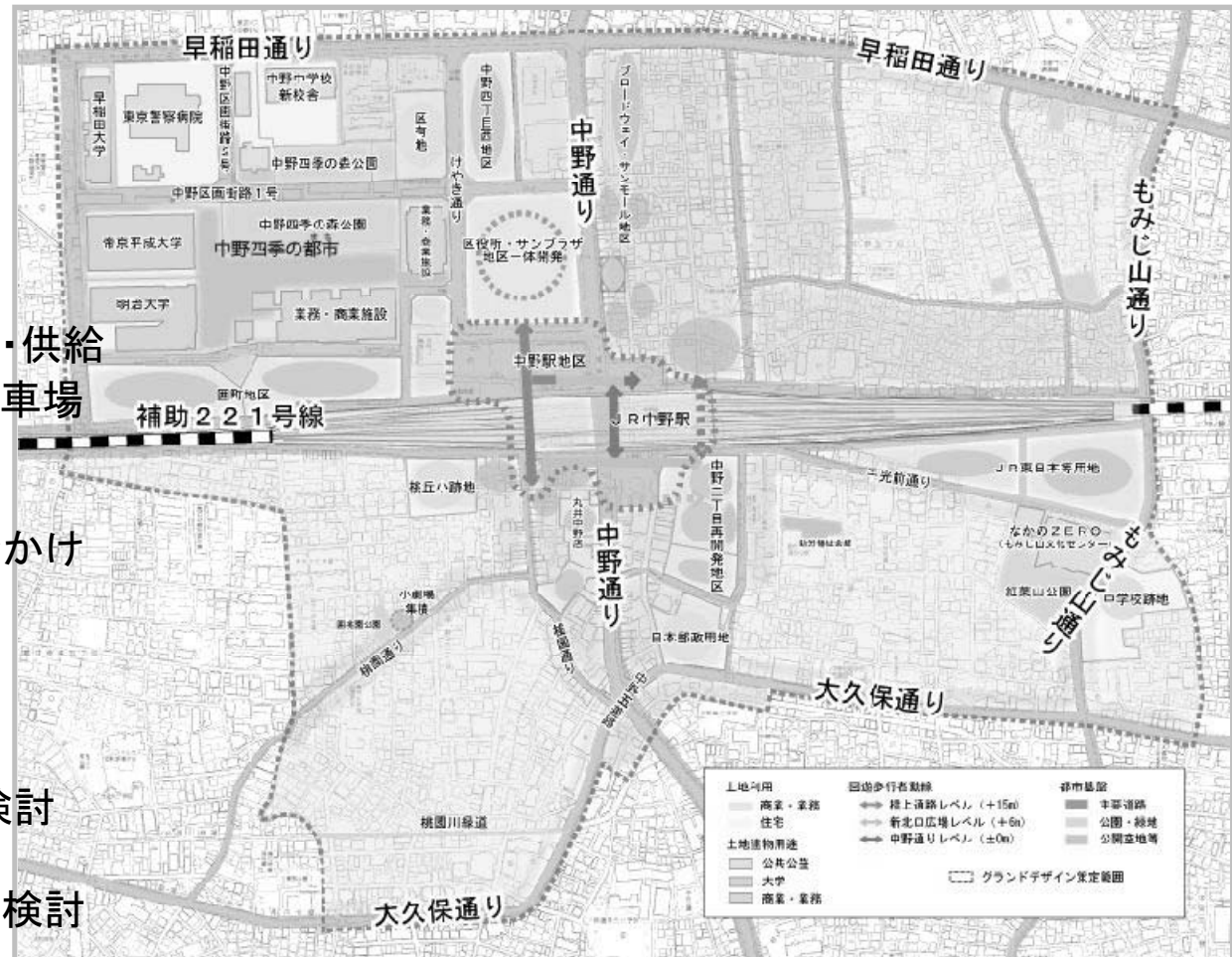
- まちづくりに寄与する最適配置の検討

【中野体育館】

- 防災機能等を勘案した最適配置の検討

【新たな防災空間の確保】

- 大規模で多目的に使える屋内スペースの確保



第4章 今後のまちづくりの展開

主なプロジェクトについて、概ね3年を1期とした目標期間を設定

